

陈璐  
CHEN Lu



Sway Chair

木、アップサイクルプラスチック

## Sway Chair

今は大量生産・大量消費・大量廃棄型経済活動をしている時代である。社会的に環境問題への危機意識が高まっていながらも、日本において毎年約 4272 万トンの廃棄物が発生している。廃棄物埋立処分場の飽和や不法投棄、将来的に資源の枯渇が深刻な社会問題になっている。解決策としては科学技術や政府の環境政策の推進に頼るだけでは足りず、人間の思考や行動を根本的な問題に捉えなければいけない。そこで、本研究では従来の「科学技術」や「環境政策」という受動的な解決策ではなく、人の思考と行動を環境保護に繋ぐことを意識させ、主体的な環境保護への参与を促すことでごみ問題を解決することを目的とする。

前期調査でアップサイクルに関する意識調査とアップサイクルはがどんな形で現れるのかに焦点を当てた結果、アップサイクルという言葉はまだ多くの人に認識されていないことがわかった。そして、アップサイクルを通して環境意識を高めるためには今まで目に見えていない素材を新たな使い道を探し、もっと身近な製品に取り込むことが重要であることがわかった。そこで、廃棄物から生活に欠かせない家具に着目し、アップサイクルには様々な素材と方法があることがわかった。

アップサイクル素材のリサーチの中で特に注目したのは、電線やケーブルのリサイクル問題だ。電線やケーブルでは導体の 99.8%がリサイクルされている一方で、被覆材はわずか 43.1%しかリサイクルされてない。この課題に着目し、被覆材を活かしてアップサイクル素材の価値を伝えることを考えた。

被覆材のような軟質なプラスチックを利用した身近な例をリサーチしている中で、被覆材の柔軟な特性を活かし、木材と組み合わせて家具のパーツとして利用する可能性が浮かび上がった。プラスチックに天然素材や自然の要素を取り入れることで、コントラストによる環境保護のメッセージを伝えることができる。このような素材のコンセプトを基に木と被覆材の接合に関する実験を行った。実験では伝統技法の仕口(しぐち)や継手(つぎて)と現代の接合方法の三つに分けて行った。

これらの実験をもとに、人の動きに寄り添うリクライニングチェア“Sway Chair”をデザインした。“Sway Chair”は、背もたれと座面を繋ぐ部分や肘掛けに被覆材から作ったアップサイクルプラスチック素材を取り入れている。そのため、座る姿勢に合わせた動きを助ける構造を持ち、リクライニングチェアとして人の動きと調和してスウィングすることができる。このように、アップサイクルプラスチックから生まれた柔らかな素材は、木の温もりと融合し、硬い木製家具にはない柔軟性と快適さをもたらした。

本研究を通じて、アップサイクル素材が持つ特徴に適した役割を与えることで、アップサイクルには価値があることを示す可能性が見えてきた。そして、アップサイクルが環境への積極的な貢献を果たす可能性を示し、人々の意識と行動が環境保護に結びつくことを促進することが期待される。